

## 令和2年度 図書館活用推進校 学校図書館実践事例

新潟市立丸山小学校

### 1 丸山小学校の児童の実態

#### (1)「読書センター」として

- ・読書を積極的にする児童が多く、図書館利用の時間だけでなく、休み時間も多くの児童が図書室へ通っている。
- ・学年での読書量では、学年が上がるにつれてやや減少傾向にあるが、どの学年も平均で年間100冊以上の貸し出しを行っている。

#### (2)「学習センター」として

- ・担任と司書が連携し、学習に必要な図書資料を揃え、教室に学級文庫として期間を設け、自由に読めるような環境を設定している。

#### (3)「情報センター」として

- ・「学校図書館活用年間計画」は、一昨年度作成後、計画的な利用ができなかった。今年度、中学校区で連携して作成を行う際に、参考資料として活用した。

### 2 丸山小学校の取組

#### (1)「読書センター」として

##### ① 図書館ガチャガチャ開催

11月の読書旬間で、図書委員が作成したガチャガチャを引くイベントを開催した。期間中に図書室に來校したらスタンプをカードに押し、スタンプがたまったらガチャガチャを引くことができる。ガチャガチャを引くと、しおりがもらえたり、貸し出し追加券や館内本貸し出し券などがもらえたりする。

【図書委員児童作成のガチャガチャと実際の様子】

【貸し出し券】



「ガチャガチャを引きたいから本を借りよう」と、図書室へ向かう児童が増えた。プラス1冊券を使って、さらに本を借りて読む姿が見られた。

##### ② 本の紹介「ぼくの一冊・わたしの一冊」カードの作成・家読(うちどく)カードの取組

読書旬間中に、児童一人ひとりが、おすすめの本の紹介カードを作成した。紹介カードは各学年の教室前廊下に掲示し、代表児童のカードを児童玄関前に掲示した。友達の書いた紹介カードを読んで、いつもと違うジャンルの本を借りる児童の姿が見られた。

【ぼくの一冊・わたしの一冊】



【家読(うちどく)カード】

よんだ日	本のなまえ	方法	だれと/だれに
11/7 (土)	おいしいしろくま あまのしろくま	④	妹
8 (日)	きんぎょのうた すてきなうた	④	妹
9 (月)	おしりたん P.20ページ読み	④	妹
10 (火)	おしりたん P.20ページ読み	④	妹
11 (水)	おしりたん P.20ページ読み	④	妹

家で読書をしたら、本のなまえと、読書の方法を記録しましょう。  
 (読書の 方法)  
 ① ひとりて読んだ ③ 家族に読んでもらった  
 ② 家族と いっしょに読んだ ④ 家族に読んであげた

5歳までの子どもに読んでみます。お家の人もお子さんと一緒にぜひ読書をお願いします。

よんだ日 (日) くにむかし  
 (月) 11/7 (土) おいしいしろくま  
 (日) 8 (日) きんぎょのうた  
 (月) 9 (月) おしりたん  
 (火) 10 (火) おしりたん  
 (水) 11 (水) おしりたん

(のんそう) おしりたんを上手に読めて良かった。  
 (おうちの 人から) 夕べに本を読んでもらって、楽しみにしていたけど、子どもと一緒に読んでくれました。

家読(うちどく)カードは、家での読書を積極的に行うために5日間の読書記録をカードに残し、おうちの方からコメントをもらった。自分一人で読むだけでなく、家族と一緒に読んだり、読み聞かせを行ったりするなど、積極的に読書をする児童の様子が見られた。また、おうちの方も一緒に読書をしていただくなど、家での読書習慣の推進にもつながったと考えられる。

(2)「学習センター」として

①中学校区連携で作成した「学校図書館年間活用計画」を使って

大江山中学校区では、今年度は国語の教科に限定して「学校図書館年間活用計画」の作成を行った。その実践として2つ紹介する。

1学年では、国語「自動車くらべ」「じどう車ずかんをつくろう」の単元を学習し、よりくるまについて詳しく学習するために、『はたらくじどうしゃ』や『ごみしゅうしゅう車・ゆうびん車』などの図書室の本を借りて、じどう車ずかんを作成した。作成したずかんは図書室に置き、誰でも読めるように掲示している。

1学年活用計画

11月	
単元	かん字のはなし(3) <b>じどう車くらべ(7)</b> <b>じどう車ずかんをつくろう(5)</b> かたかなをかこう(2) ともだちのこと、しらせよう(6) <b>むかしばなしをよもう</b> <b>おかゆのおなべ(4)</b>
学習に有効な図書	【じどう車くらべ じどう車ずかんをつくろう】 『はたらくじどう車』元浦 年康 『ごみしゅうしゅう車・ゆうびん車』小峰書店編集部

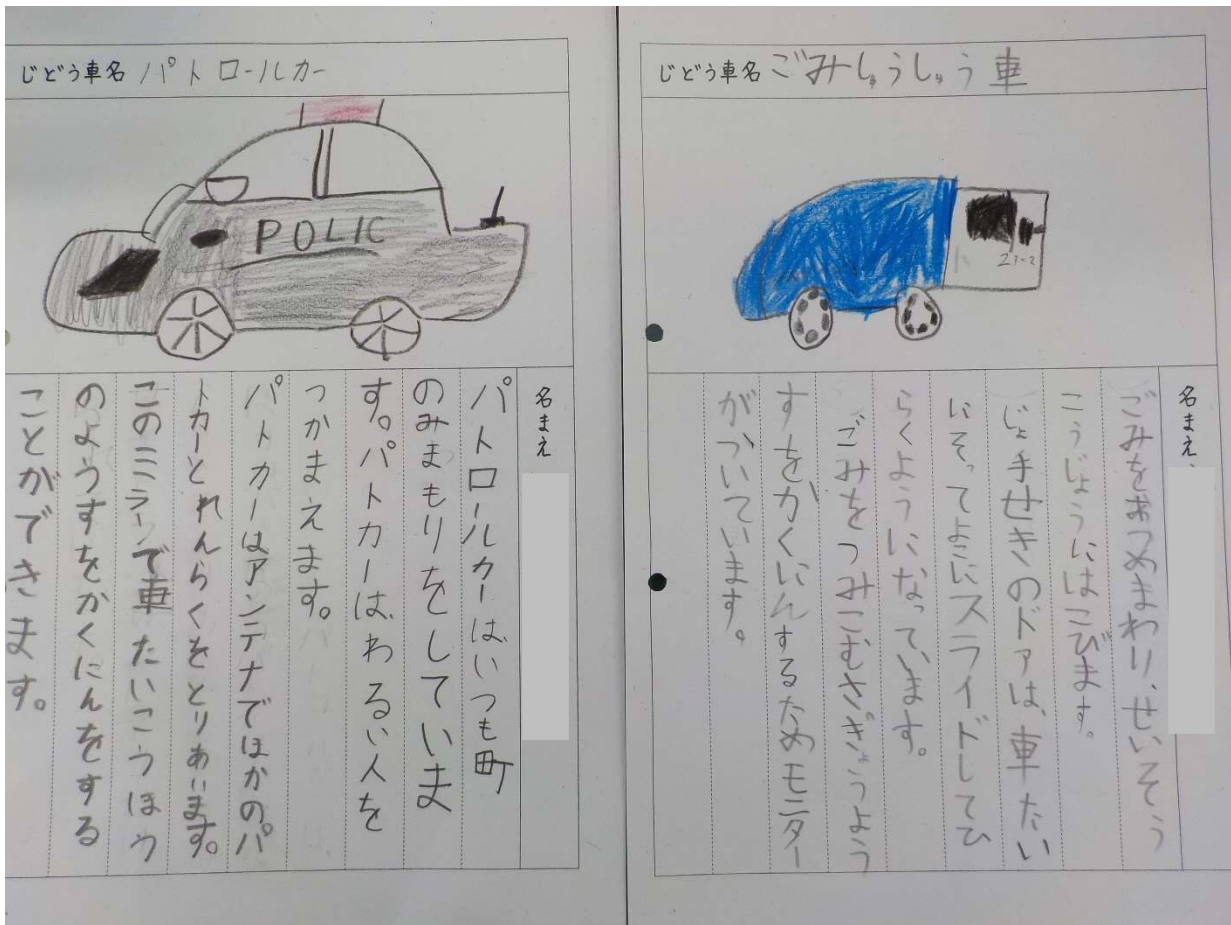
5学年活用計画

7月	
同じ読み方の漢字(2)	
夏の後(2)	
<b>作家で広げるわたしたちの読書 カレーライス(5)</b>	
【作家で広げるわたしたちの読書 カレーライス】	
『川をのぼって森の中へ』今森 光彦	
『神様の階段』今森 光彦	
『獣の奏者1』上橋 菜穂子	
『あのころ』さくら ももこ	
『まるむし帳』さくら ももこ	
『くもぶき番長』重松 清	
『小学五年生』重松 清	
『さすらい猫 ノアの伝説』重松 清	
『おいしいちゃんの大切な一日』重松 清	
『きみの町で』重松 清	
『希望の地図』重松 清	
『また次の春へ』重松 清	

その単元での学習に活用することができる本が対応して表にあるので、事前に貸出がしやすい。

教科書で登場するお話と同じ作家が書いた本を図書室で借りられることがひと目で分かる！

【1年生の作ったじどう車ずかん】

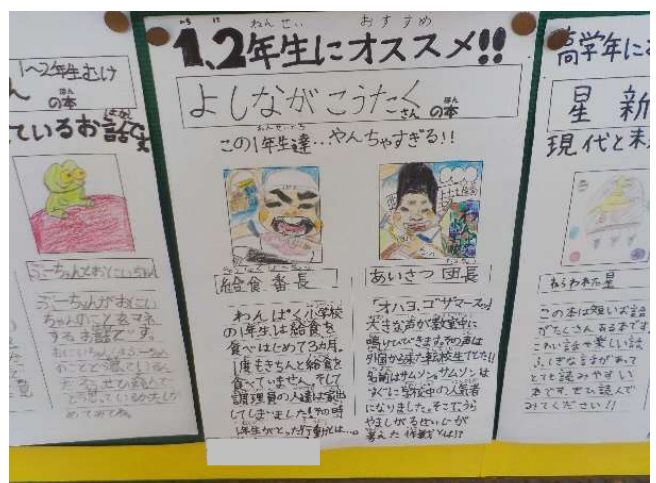


1 学年担任の声

教科書で学んだ自動車の「つくり」と「しごと」という見方を使って図書室の本でも同じように乗り物について読みとることができていた。教科書だけでなく、図書室の本を活用することで、自分の知りたい情報を得ることができ、子どもたちは達成感を味わうことができていた。

5学年では、「作家で広げるわたしたちの読書」の単元を学習する際に、教科書にある題材『カレーライス』を書いた著者(重松 清)の本を導入で紹介し、並行読書を進めた。また、単元終末のまとめとして、自分の好きな作家を一人選び、2冊の本のおすすめカードを作成した。年間計画でとりあげられている本をきっかけに、同じ作家での本選びや紹介カード書きと、発展的な学習につなげることができた。

【図書室前に掲示された紹介カード】



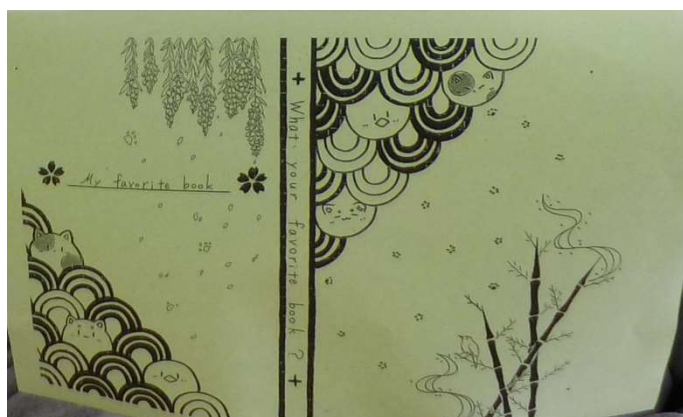
## 5学年担任の声

図書室で好きな作家の本を選ぶとき、児童はとても楽しそうに悩んでいた。「おすすめしたい作家の本を探す」という目的意識をもって選んでいたからだと思う。紹介カード書きでは、低学年でも読めるようにふりがなをつけたり、物語の見出しをつけたりと、相手意識をもって取り組む姿が見られた。

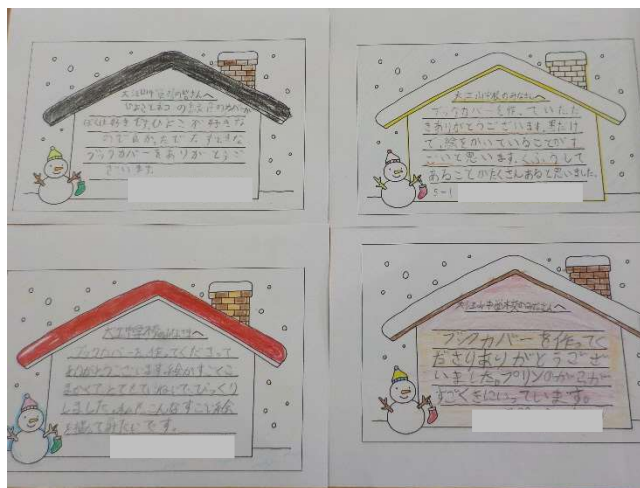
## (3) 中学校区連携の取組

12月に、大江山中学校の生徒が部活動で作成したブックカバーをいただいた。ブックカバーのお礼として、図書委員からお手紙を書く活動を行った。本を通して中学校区のつながりを感じる活動となった。

【中学生が作成したブックカバー】



【お礼の手紙】



## 3 取組を振り返って

本校では、読書センターとしての取組と、学習センターとしての取組を中心に行った。読書センターとしては、毎年行っている活動の充実と改善をはかることができた。学習センターとしての取組では、図書室で意欲的に学ぶ姿が見られ、教科書で学習した内容に関連する図書を休み時間に進んで借りてくる児童も多くなった。今年度は国語科における「学校図書館年間活用計画」を作成した。今後はその活用をしつつ、中学校区での連携を強化し、先を見通した図書館活用を行っていきたい。